

第29回定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示事項

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

株式会社ケアサービス

法令及び当社定款第15条の規定に基づき、連結計算書類の連結注記表及び計算書類の個別注記表につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.care.co.jp/>) に掲載することにより株主の皆様にご提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称 上海福原護理服務有限公司、株式会社ケアサービスヒューマンキャピタル、株式会社ひだまり

なお、当連結会計年度において、株式会社ひだまりの株式を取得したため、連結の範囲に含めることとし、北京福原順欣養老管理有限公司は清算したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した非連結子会社及び関連会社はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の上海福原護理服務有限公司の決算日は12月末日、株式会社ひだまりの決算日は2月末日であります。

なお、連結計算書類の作成に当たっては連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料及び貯蔵品

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な固定資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産（リース資産を除く） 主として定率法。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法
主な資産の耐用年数
建物 2～15年
工具、器具及び備品 2～15年
- ②無形固定資産（リース資産を除く） 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
- ③リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（残価保証の取決めがある場合は残価保証額）とする定額法を採用しております。
- ④長期前払費用 均等償却

(3) 引当金の計上基準

- ①貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ②賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ③事業所閉鎖損失引当金 事業所の閉鎖に伴い発生する費用の支出に備えるため、閉鎖費用の見込額を計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- ①消費税等の会計処理 税抜方式によっております。なお、資産に係る控除対象外消費税は、発生連結会計年度の期間費用として処理しております。
- ②退職給付に係る会計処理の方法
・退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
数理計算上の差異及び過去勤務費用については、その発生時に一括費用処理しております。
- ③外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- ④のれんの償却方法及び償却期間
のれんについては、5年間の定額法により償却を行っております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(連結貸借対照表関係)

- ・前連結会計年度において、有形固定資産の「その他」に含めて表示していた「リース資産」(前連結会計年度3,400千円)は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。
- ・前連結会計年度において、無形固定資産の「その他」に含めて表示していた「のれん」(前連結会計年度14,166千円)は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

(連結損益計算書関係)

- ・前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に含めて表示していた「奨励金収入」(前連結会計年度120千円)は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。

3. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額 876,761千円

4. 連結損益計算書に関する注記

事業譲渡益

サービス付き高齢者向け住宅事業の譲渡により、事業譲渡益を特別利益として計上しております。

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末日における発行済株式の総数
普通株式 4,200,000株
2. 当連結会計年度末日における自己株式の総数
普通株式 406,681株
3. 配当に関する事項
(1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基 準 日	効力発生日
2019年6月25日 定 時 株 主 総 会	普通株式	25,605	6.75	2019年3月31日	2019年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決 議 予 定	株式の種類	配当金の 総 額 (千円)	配当の 原 資	1株当たり 配 当 額 (円)	基 準 日	効力発生日
2020年6月23日 定 時 株 主 総 会	普通株式	26,553	利 益 剰 余 金	7.00	2020年3月31日	2020年6月24日

6. 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

主に介護事業を行うための事業計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。
なお、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、大部分が介護保険制度に基づく債権であり、相手先が保険者（市町村及び特別区）であるため、リスクは微少であります。一方、個人負担額及びエンゼルケア事業の債権については、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、ほとんど2ヶ月以内の支払期日であります。

長期借入金（原則として5年以内）は主に設備投資に係る資金調達です。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、与信管理規程に従い、主要な取引先の信用状況を把握するとともに、債権回収の期日管理を行い、回収懸念の早期把握に努めております。

②資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

事業計画及び各部署からの報告に基づき、適時に資金計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	957,107	957,107	—
(2) 売掛金	1,313,024		
貸倒引当金 (※)	△315		
	1,312,709	1,312,709	—
(3) 敷金及び保証金	198,815	192,869	△5,946
資産計	2,468,632	2,462,685	△5,946
(1) 買掛金	145,581	145,581	—
(2) 未払金	33,135	33,135	—
(3) 未払法人税等	37,180	37,180	—
(4) 長期借入金 (1年以内返済予定を含む)	395,476	395,390	△85
(5) リース債務 (1年以内返済予定を含む)	144,306	144,226	△80
負債計	755,681	755,515	△165

(※) 売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 敷金及び保証金

時価の算定は、合理的に見積りした敷金及び保証金の返還予定時期に基づき、国債の利率で割り引いた現在価値によっております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金、(5) リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を同様の新規借入、割賦取引、又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	447円24銭
2. 1株当たり当期純利益	63円85銭

8. 企業結合に関する注記

事業分離

(1) 事業分離の概要

① 分離先企業の名称

株式会社関東サンガ

② 分離した事業の内容

当社のサービス付き高齢者向け住宅事業

③ 事業分離を行った主な理由

当社はサービス付き高齢者向け住宅を埼玉県内に4カ所展開しておりました。

今般、埼玉県内で13カ所の介護施設を運営する株式会社関東サンガより、当社のサービス付き高齢者向け住宅事業の譲渡について打診を受けたことから、社内で慎重に検討を重ねた結果、当社の中核事業である在宅介護事業に経営資源を集中させて東京23区を中心としたドミナント戦略を加速するために、同社に当該事業を譲渡することといたしました。

④ 事業分離日

2019年12月1日

⑤ 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金のみとする事業譲渡

(2) 実施した会計処理の概要

① 移転損益の金額

199,437千円

② 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

固定資産 2,987千円

③ 会計処理

サービス付き高齢者向け住宅事業に係る資産の連結上の帳簿価額及び事業譲渡に関する費用と、売却価額の差額を事業譲渡益として特別利益に計上しております。

(3) 分離した事業が含まれていた報告セグメント

サービス付き高齢者向け住宅事業

(4) 当連結会計年度に係る連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高	444,280千円
営業利益	17,302千円

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 株式会社クリアバーク
事業の内容 訪問看護事業

② 企業結合を行った主な理由

当社の在宅介護事業は、東京23区を中心としたドミナント戦略を展開し成長を続け、近年はドミナント戦略の推進のため、新規出店をはじめとして事業承継、非核化事業の整理等の経営課題を抱える在宅介護事業者の受け皿となるなど、東京23区内の事業基盤の強化を図っております。

今回、株式会社クリアバークが運営する、江戸川区、墨田区の訪問看護事業所（計2事業所）を譲り受けることで、その近隣地域の在宅介護の深耕拡大によりドミナント強化が図られることと、またお客様の多様な在宅介護サービスの要望に応える上では、訪問看護サービスはデイサービス、訪問介護、居宅支援サービスとの親和性が高く、今後において介護と医療を繋ぐ相互活性が不可欠となることから、訪問看護事業を譲り受けることを決定いたしました。

③ 企業結合日

2020年2月1日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする事業譲受

⑤ 結合後企業の名称

当社(株式会社ケアサービス)を事業取得企業としております。

(2) 連結計算書類に含まれている取得した事業の業績の期間

2020年2月1日から2020年3月31日まで

(3) 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内容

取得の対価（現金）	47,454千円
取得原価	47,454千円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用 5,736千円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれんの金額 30,641千円

② 発生原因

主として今後期待される超過収益力によるものであります。

③ 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

固定資産 16,813千円

資産合計 16,813千円

(7) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

9. 重要な後発事象

(資金の借入)

当社は2020年3月31日の取締役会決議に基づき、以下のとおり借入を実行いたしました。

借入先	(株)みずほ銀行	(株)横浜銀行	(株)三菱UFJ銀行
借入金額	300,000千円	300,000千円	200,000千円
借入利率(年利)	基準金利+スプレッド、 変動金利	基準金利+スプレッド、 固定金利	基準金利+スプレッド、 固定金利
資金用途	運転資金	運転資金	運転資金
借入実行日	2020年4月9日	2020年4月8日	2020年4月9日
返済期限	2021年3月31日	2020年9月30日	2021年3月31日
担保等	無担保、無保証	無担保、無保証	無担保、無保証

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
子会社株式 移動平均法に基づく原価法
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
商品 先入先出法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
原材料及び貯蔵品 先入先出法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産 (リース資産を除く) 定率法。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法
主な資産の耐用年数
建物 7～15年
工具、器具及び備品 2～15年
 - (2) 無形固定資産 (リース資産を除く) 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法によっております。
 - (3) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零 (残価保証の取決めがある場合は残価保証額) とする定額法を採用しております。
 - (4) 長期前払費用 均等償却
4. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

- (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。
- ①退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
数理計算上の差異及び過去勤務費用については、その発生時に一括費用処理しております。
- (4) 事業所閉鎖損失引当金 事業所の閉鎖に伴い発生する費用の支出に備えるため、閉鎖費用の見込額を計上しております。
5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項
- (1) 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。なお、資産に係る控除対象外消費税は、発生事業年度の期間費用として処理しております。
- (2) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- (3) のれんの償却方法及び償却期間 のれんについては、5年間の定額法により償却を行っております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(貸借対照表関係)

- ・前事業年度において、有形固定資産の「その他」に含めて表示していた「リース資産」(前事業年度3,400千円)は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。
- ・前事業年度において、無形固定資産の「その他」に含めて表示していた「のれん」(前事業年度14,166千円)は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

(損益計算書関係)

- ・前事業年度において、営業外収益の「その他」に含めて表示していた「奨励金収入」(前事業年度120千円)は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

3. 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額 871,512千円

2. 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

関係会社に対する短期金銭債権	95,652千円
関係会社に対する長期金銭債権	21,956千円
関係会社に対する短期金銭債務	6,179千円

4. 損益計算書に関する注記

1. 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

営業取引（支出分）	52,219千円
営業取引（収入分）	4,549千円
営業取引以外の取引（収入分）	2,423千円

2. 事業譲渡益

サービス付き高齢者向け住宅事業の譲渡により、事業譲渡益を特別利益として計上しております。

3. 関係会社貸倒引当金繰入額

当社の連結子会社である「上海福原護理服務有限公司」に対する短期債権について、「関係会社貸倒引当金繰入額」を特別損失として計上しております。

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における自己株式の総数

普通株式	406,681株
------	----------

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産		
賞与引当金		41,118千円
退職給付引当金		42,291千円
関係会社貸倒引当金		20,092千円
資産調整勘定		14,046千円
未払事業税		9,213千円
資産除去債務		10,898千円
未払社会保険料等		6,317千円
繰延消費税等		4,723千円
事業所閉鎖損失引当金		786千円
その他		2,768千円
繰延税金資産小計		152,255千円
評価性引当額		△20,092千円
繰延税金資産合計		132,163千円
繰延税金負債		
顧客関連資産		△973千円
繰延税金負債合計		△973千円
繰延税金資産の純額		131,189千円

7. 関連当事者との取引に関する注記

種類	会社等の名称	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	上海福原護理服務有限公司	所有 直接 100.0	役員の兼任 資金の援助	資金の貸付 (注)1,2	41,467 (注)3	流動資産 その他	63,665
				出向社員給 与等の未収 額(注)2	3,886 (注)4	流動資産 その他	29,415

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 資金の貸付に係る金利については、市場金利を勘案し決定しており、返済条件は当該会社と個別に交渉し、決定しております。

(注) 2. 債権について、貸倒引当金(65,677千円)を設定しております。

(注) 3. 取引金額は貸付金の増加額となります。

(注) 4. 取引金額は債権の減少額となります。

8. 1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	451円67銭
2. 1株当たり当期純利益	68円35銭

9. 企業結合に関する注記

連結計算書類 連結注記表 8. 企業結合に関する注記に記載のとおりであります。

10. 重要な後発事象

連結計算書類 連結注記表 9. 重要な後発事象に記載のとおりであります。